

高等
教育の

みちしるべ

関西学院大学
高等教育推進センター
ニュースレター

Vol.25 [2024.3.31]

TOPICS

Best Contribution賞

～ライティングセンターに授与～

FD活動報告(学部・センター等、研究科)

～FD活動の取り組み事例～

よりみちコラム

～大学院生を対象としたプレFDについて～



高等
教育の

みちしるべ

関西学院大学
高等教育推進センターニュースレター vol.25

発行日：2024年3月31日

発行者：関西学院大学高等教育推進センター

TEL 0798-54-7433

FAX 0798-54-7421

HP <https://www.kwansei.ac.jp/highedu>

E-mail HighEdu@kwansei.ac.jp

ご意見・ご感想をお寄せください。
FD講演会・研修会等の依頼も歓迎いたします。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

目次

CONTENTS

| | | | |
|-------------------------|---|----------------|----|
| センターの紹介 発行挨拶 | 2 | 授業調査年間報告 | 8 |
| Best Contribution賞 | 3 | ICTツール、LUNAの紹介 | 9 |
| FD・SD講演会 FD研修会講師派遣情報 | 4 | 特集 | 10 |
| FD活動報告(学部・センター等、研究科) | 5 | よりみちコラム | 11 |
| 新任教員研修年間報告 | 7 | | |

センターの紹介

CENTER INTRODUCTION

本センターは、教育力を強化し、教育の質を高めることにより、本学の教育の一層の充実・発展に寄与することを目的として、次の事業を行っています。

- 1 本学の教育力向上に資する全学的方針の立案および活動の企画・運営
- 2 教職員による自律的な教育改善コミュニティ形成の支援
- 3 高等教育に関する政策動向等の調査・研究
- 4 学習支援システムを活用した教育の開発・支援
- 5 TA・LA等の教育・指導力向上の支援に繋がる活動の企画・運営
- 6 センター紀要、資料等の発行
- 7 その他必要な事業



発行挨拶

PUBLICATION GREETINGS

ニュースレター第25号をお届けいたします。今回の巻頭特集では「Best Contribution賞」について取り上げています。COVID-19禍を経て新しい学部教育が開発される現在、質の高いレポートの作成による論理的思考の育成が求められています。このような中、今回の「Best Contribution賞」では、全キャンパスの学部生への個別指導、ワンポイントセミナー、授業への出張講座、さらにFD研修などの実施によりレポート執筆や卒業論文執筆について適切かつ丁寧な支援を進めておられますライティングセンターの実践活動について顕彰させていただきました。次に新しい企画として、今年度に本センター着任の岩田専任講師により「Type-A・Bの教室活用事例紹介」およびコラムも掲載しています。また昨年度に引き続きまして、大学・大学院

FD部会でのご意見をもとに開催しましたFD・SD講演会、新任教員研修会(年間)など本センターの活動についても報告しております。

最後になりましたが、本ニュースレターは従来の年2回発行から年1回への発行に変更し、本センターの活動が学内外の読者の皆様にとって今後の働きの一助となればという願いのもと「みちるべ」という新しいタイトルをつけデザインを刷新し、紙面をリニューアルいたしました。来る2024年度も、ご協力とお力添えをお願いいたします。

高等教育推進センター長
小谷 正登



Best Contribution賞

2023年度 「高等教育推進センターBest Contribution賞」 ライティングセンターへ授与

高等教育推進センターが、本学の教育力向上に貢献した個人・団体を顕彰するBest Contribution賞を、2023年度はライティングセンターに授与し、クリスタルトロフィーを贈呈しました。

(受賞コメント)

2023年度で本学にライティングセンターが設置されて4年目、対面指導を始めて3目になります。対面指導の利用件数は1年目の573件から今年度には991件となり1,000件近くまで増加しています。今回、授業や対面指導に加え、学部と連携したプログラム提供などの活動成果を認めていただきましたが、受賞をきっかけに学内での更なる認知度向上を期待しています。ライティングセンターでは本学の更なるライティング教育の充実のために取り組んでいきたいと思っておりますので、ご相談・ご要望などございましたらぜひご連絡ください。



ライティングセンター 福山 佑樹教授

■ライティングセンターの概要

学生の学術的な文章作成能力(ライティングスキル)の修得を支援するための各種施策を実施し、論理的思考力や表現力を身に付けた「自立した書き手」を育成することを目的に、2020年度に設置されました。主な活動として、「ライティング科目の提供」と「対面指導」に取り組んでいます。

■顕彰のポイント

ライティング科目受講学生の満足度の高さだけでなく、授業改善を図る教材開発にも積極的に取り組まれています。学部と連携した取り組みや対面指導セッション数の増加、LINEを活用した広報活動の強化など、多様な取り組み・工夫を通じて学生のライティング力向上に尽力されている点です。

■具体的な取り組み

全学開講科目として「スタディスキルセミナー(レポート執筆の基礎)」を開講。開講初年度は定員充足率100%となり、以降も各学期とも一定の履修者数を確保されています。また開設以降、授業改善を常に行っており、対面方式のみならずオンデマンドとのハイブリッド型の授業を開発されました。

学部との連携では、新入生対象の動画コンテンツや課題・教材を提供し、課題の中で教員よりセンターの利用促進をしたことで、ライティングに関心を持つ学生の利用増加に繋がります。

した。今後も学部との連携拡大が進められていきます。

対面指導では、学部生の支援にあたる大学院生スタッフ(チューター)への研修を実施し、セッションの質の維持・向上に取り組み、その結果リピーター増加に繋がっています。運営を担う契約助手の久保 槇祐野さんによると、「学生が課題に取り組むことが楽しくなってきた」と感想を持ってきています。」と満足度の高さを伺うことができました。



2023年度 FD・SD講演会

■第18回高等教育推進センターFD講演会

開催日時:2023年8月31日(木) 13:30~14:30

開催形式:オンライン

講師:武田 俊之氏(高等教育推進センター 教育技術主事)

主 題:「大学の授業と著作権について」



本学高等教育推進センターの武田俊之先生に、昨年度に引き続き大学の授業と著作権についてご講演いただき、学内外から173名の参加がありました。

著作権や個人情報保護に関する法制度やガイドラインは常に見直され続けており、今回の講演では、大学の授業において必要な留意点について要点を絞ってわかりやすく説明いただきました。また、急激に利用が加速する生成AIと著作権の関係や課題につい

でも解説いただき、参加者より「教員が授業をするうえで著作権という切り口でしたが、学生の答案や制作物、成績評価についても今後触れて欲しいです。」「大学教育と生成AIについては勉強しなければならぬと思っていたので、よい機会になりました。」など多数好評の感想をいただき、非常に参考になる研修となりました。

■第19回高等教育推進センターFD講演会

開催日時:2024年2月16日(金)10:00~11:30

開催形式:オンライン

講師:和嶋 雄一郎氏

(名古屋大学教育基盤連携本部 / 高等教育研究センター 特任准教授)

主 題:「大学教育と生成系AI -ChatGPTをToolとして活用できるか?-」



名古屋大学特任准教授の和嶋雄一郎先生をお招きし、生成系AIに関する基本的な情報からわかりやすくご説明いただきました。また、実際にChatGPTのデモンストレーションを行いながら、大学教育における活用の可能性についてご解説いただきました。学内FD講演会として実施し、82名の参加がありました。

参加者より「ChatGPTで何ができるか、どのように

指示すればよいか、実際にデモで見せていただいたので、大変参考になりました。」「初歩的なところからの説明、使用例の提示、また、教員がどう向き合っていくべきかということへのヒントがあり、ありがたかったです。」など多数好評の感想をいただきました。参加者との質疑応答も活発に行われ、今後の大学教育について示唆に富む内容となりました。

2023年度の学部・研究科FD研究会への講師派遣情報

高等教育推進センターでは、各学部・研究科のFD研究会に講師を派遣しています。2023年度はTurnitin利用講習会、生成AIに関する講演を行いました。

これらのテーマに限らず高等教育推進センターでは、FD研究会に関する情報提供を行っています。FD研究会実施にお困りの際は、高等教育推進センターまでご相談ください。

テーマ Turnitin利用講習

日 時:2023年6月7日(水)15:10~16:10

学 部:神学部

講師:ターニットイン・ジャパン
田中 大智氏・鬼束 愛子氏

テーマ FD研究会:大学教育と生成AI

日 時:2023年12月6日(水)15:30~16:30

学 部:法学部

講師:武田 俊之
(高等教育推進センター 教育技術主事)

2023年度 学部・センター等FD活動報告

誌面の都合上、一部の学部・センター等、研究科のFD活動報告を掲載していません。全てのFD活動報告は、右記QRコードよりご確認ください。



神学部 FD活動報告

2023年度春学期のFD研修会は6月7日の4時限に吉岡記念館3階会議室で開催された。春学期はTurnitinの機能とそれをLUNA上で利用する方法について学ぶ機会を持った。まず、Turnitin社にZoomをとおして機能等の説明をしていただいた。また、高等教育推進センターの職員の方々も出席されて、アプリケーションの使用についての助言を受けた。その後、とくに運用面について、学内他学部の教員との連携や生成系AIのチェックについて質疑が行われた。秋学期の研修会は11月1日の4時限に吉岡記念館3階会議室で開催された。

秋学期は「アクティブ・ラーニングの理論と実践」と題して、講義にアクティブ・ラーニングを取り入れる方法について学ぶ機会を持った。講師として、本校ライティングセンターの福山佑樹教授を迎え、新たな講義の進め方についての視点や具体的例を提供していただいた。以上のFD研修をとおして、授業の方法及びその教育効果についての課題と展望を教員間で共有することができた。

PICK UP

Turnitin利用講習

2023年度春学期の神学部FD研修会(6月7日)として、Turnitinの機能について、またそれをLUNA上で利用する方法について学ぶ機会を持った。アプリケーションの説明については、Turnitin社にZoomをとおして行ってもらった。また、高等教育推進センターの職員の方々も出席されて、とくにLUNA上でのアプリケーションの使用についての助言を受けた。研修会では、学内他学部の教員との連携、閲覧できる参考レポートの匿名性、さらには、今後可能になると思われる生成系AIのチェックに関する質疑も行われた。この研修を受け、2023年度秋学期の2年生向けの基礎教育科目の必修科目「文献講読B」のあるクラスでは、レポート課題を学生に告知した上でTurnitin課題として実施した。上記科目担当者は「まだTurnitinの効果的な利用方法について実践を通して学ぶ必要はあるが、適切な引用のルールに従ってレポートを作成することへの学生の意識を高めることには役立った」との感想を述べている。

法学部 FD活動報告

当該年度におけるFD活動として、法学部は以下2回の研究会を開催した。

第1回(2023年9月13日)では、「データでみる法学部生~新入生から卒業生まで」をテーマに関西学院会館で実施した。総合企画部(IR室)の職員が登場。はじめに、大学経営や教育改善をサポートする機能であるIRについて、本学が定める目標や機能、調査の目的や概要などを共有した。その後、①入学試験、②在学生、③卒業生ごとに細かくデータを確認した。最後に質疑応答を行い、今後のIRの活用やIR室との連携を意識する機会となった。

第2回(2023年12月6日)では、「大学教育と生成AI」をテーマに関西学院会館で実施した。高等教育推進センターの武田俊之・教育技術主事が登壇。冒頭にChatGPTを中心とした生成AIの特徴等を解説し、その後、大学教育での効果的な活用とリスクについて確認した。その上で、本学で6~7月に実施した「生成系AIに関連した教育上の課題」についてのアンケート結果も踏まえながら、意見交換や活用事例の共有を行った。

PICK UP

FD研究会:
大学教育と生成AI

今回のFD研究会において、これまで知らなかったChatGPTの仕組みを知ることができました。ChatGPTが入力テキスト(プロンプト)から次の語を予測する大規模言語モデルを核としていることを踏まえると、その得意なこと・不得意なことについての解説に納得できました。それとともに、講話で触れられていたように、ChatGPTを上手に利用するためには、プロンプトデザイン(プロンプトエンジニアリング)に関する知識が必要であると感じました。ChatGPTは優秀な助手という旨のお話がありましたが、その能力を発揮させるためには使い手が適切なテキストを入力する必要があることに鑑みると、ChatGPTの利用は人にわかりやすく指示を与えることに似ていると思います。ChatGPTのような生成系AIの存在・利用を前提にこの先の大学の授業や研究活動は行われることになるでしょう。そうしますと、私たちとしては、生成系AIに関する知識・経験・学習等を等閑視してはならないと強く感じました。

研究科 FD活動報告

◆ 文学研究科 ◆

文学研究科では年間4回の研究倫理・コンプライアンス研修会を予定し、これまでに3回の研修会を実施した。研究科構成員が集まる研究科委員会の終了後に実施された研修会では、研究推進社会連携機構発行の「Newsletter」に掲載されている事案にもとづいて研究科委員長補佐が説明を行い、全員で情報を共有した。また12月には、ここ数年の実施方法を踏襲して、LUNAを用いた大学院FD研修会を行った。研究科構成員は、LUNAコミュニティ内に作成された専用項目内の「教材・課題・テスト」に資料として添付した

「研究活動上の不正行為防止への取り組み・研究費の不正使用防止への取り組み」パンフレットを熟読した上で、確認テストを受験した。テストは文部科学省のガイドライン、関西学院で独自に不正行為に定めている規定のそれぞれに関する全10問から構成され、再受験を可能にして理解を深めることとした。その結果、期間内に12月時点における文学研究科委員会構成員の全員(72人)が受講し、研究倫理・コンプライアンスに関する事項がおおむね理解されていることが確認された。

◆ 商学研究科 ◆

商学研究科は2023年度のFD活動として学部(商学部)と合同で計3回のFD教授研究会を開催した。

第1回(2023年7月12日(水)開催)では、「研究活動上の不正行為防止への取り組みについて」をテーマに、藤沢武史教授(ファカルティ・ディベロップメント委員)の講演により、本学における研究活動上の不正行為防止への取り組み、研究費の不正使用防止への取り組みなどを紹介いただいた。

第2回(2023年11月29日(水)開催)では、株式会社リクルート社より講師を招き、「関関同立における関学大への評価と受験者獲得の見込み」をテーマに講演いただいた。リクルート社が実施している高校生・受験生が抱えている各大学のイメージに関する

アンケート調査の結果を紹介いただくとともに、本学が高校生などから高い評価を獲得するために有効と考えられる施策の方向性を提示いただいた。

第3回(2024年2月14日(水)開催)では、「PBL授業を振り返って」をテーマに、3名の任期制実務家教員(井瀧正彦教授、小関亮専任講師、大政剛専任講師)よりPBL授業の概要・授業方法等を紹介いただき、PBL授業を効果的なものにするためのポイントを教員間で共有した。なお、商学部では2022年度にカリキュラム改編の一環として、任期制実務家教員がプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)形式で授業を進める「ビジネスプロジェクト」科目を新設しており、2023年度は2年目にあたる。

◆ 経営戦略研究科 ◆

専門職学位課程と博士課程後期課程を擁する本研究科は、設立当初より、研究者教員及び実務家教員に共通するFDのあり方を模索しつつ、所属教員の高い参画意識をもってFD活動を実施してきている。

2023年度は、合計3回のFD研修会を実施した。そのうち2回は、2023年夏にシステムを大幅にリニューアルした本学の教授者-学習者支援システム「LUNA」に関する学生の学習改善に向けた操作・活用方法がテーマである。2023年9月20日に1回目の

研修会を開催し、山本昭二本研究科教授と、本学情報化推進機構事務部担当者を講師として、リニューアルに伴う機能の主な変更点を紹介するとともに、各教員の疑問や課題を把握・共有した。その続編として2024年3月13日に研修会を開催し、第1回と同じく山本昭二本研究科教授と、本学情報化推進機構事務部担当者を講師として、1学期間を通してLUNAを使用するなかで各教員が抱いた疑問や課題を把握・共有するとともに好事例についても教員間で共有した。

2023年度 年間を通した新任教員研修について

2023年度も、年間15時間の新任教員研修プログラムを実施しました。プログラムの主な内容は表の通りです(冬期研修には予定も含まれます)。

主たるプログラム内容

| 時期 | プログラム内容 | 実施形式 |
|----|--|------------|
| 春 | 講演『大学人としてのスキル-教育研究以外の側面を中心として』 | 対面 |
| | 講演『本学の教育活動について』 | 対面 |
| | 講演『各種データから見る本学学生の特長』 | 対面 |
| | 講演『関西学院のミッションとビジョン』 | 対面 |
| | 講演『ハラスメントの予防と対応について』 | 対面 |
| | 講演『本学の授業実践事例紹介』(Q&Aあり) | 同時双 |
| | 実習『LMSの基本操作』 | 対面・同時双・オンデ |
| | など | |
| 夏 | 講演『授業におけるICT活用(様々なツール)』 | 同時双 |
| | ワークショップ『授業省察ワークショップ』 | 同時双 |
| | など | |
| 冬 | 講演『大学教育と生成系AI-ChatGPTをToolとして活用できるか?-』 | 同時双 |
| | 講演『大学入学者選抜の過去・現在・未来』 | 同時双 |
| | ワークショップ『教育におけるルーブリックの設計と利用』 | 同時双 |
| | ワークショップ『深い学習を促すアクティブラーニング型授業』 | 同時双 |
| | など | |

(対面:会場、同時双:ZOOM、オンデ:オンデマンド)

春期、夏期共に研修後のアンケート結果は概ね良好でした。例えば、春期に実施した『各種データから見る本学学生の特長』について、「大学の学生の状況を全体的に理解することができました。このようなデータをもとに運営、教育活動についても考えてゆきたいと思います。」や「入学学生の状況がデータによってよく理解できた。10のKwanseiコンピテンシーについて留意できるようになった。」などの自由記述回答がありました。また、『関西学院のミッションとビジョン』については、「先人の思いを知ることはとても大切だと思います。これからの関学に自分は何ができるかを考えさせられました。」や「“世界は変えられる”とのメッセージを学生に伝えたいと思いました。」

などの回答がありました。

夏期研修については、『授業におけるICT活用(様々なツール)』について受講者から「他の先生方と情報共有や意見交換ができ、大変参考になりました。今後もこのような機会を作っていただけたら有難く思います。また、ICAPモデルも大変有益な情報でした。資料に付けていただいたサイトを拝見し、他の非常勤講師とも共有させていただきたいと思いました。」などの回答がありました。

プログラム全体を通して開催時期に関するリクエストやプログラム遂行に関するご意見がありましたので、より良いプログラムの実施に向けて参考にさせていただきます。

学修行動と授業に関する調査 年間報告

2023年度春・秋学期の授業調査は、原則すべての開講科目を対象としてWeb方式で実施しました。学生への回答周知等にご協力いただきありがとうございました。

Web方式は昨年度までLMS(LUNA)上で実施してきましたが、2023年度のLMSリプレースを契機に、2023年度春学期より授業調査専用の新システム「FDマネージャー」を導入し、実施しました。春学期調査対象科目のうち学生から回答があった科目は、全体の84.7%(2022年度春学期89.9%)、秋学期は全体の68.6%(2022年度秋学期80.1%)でした。

本調査の目的は、①学生の学修行動・成果の振り返り、②授業担当者による次年度以降の授業内容や授業方法の改善の促進、③授業環境について組織的な改善に結びつけること、の3点です。なお、各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「FD活動報告」をご覧ください。

次年度も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



学生の回答促進を目的に、授業調査実施や結果に関するポスターを掲示しました。

<実施期間>

- ◆春学期
2023年 7月 3日(月)～2023年 7月21日(金)
- ◆秋学期
2023年12月13日(水)～2024年 1月16日(火)

大学院における「学生による授業評価」 年間報告

2023年度より教務機構から移管された『大学院における「学生による授業評価」』を、本センターで実施することになりました。本調査の結果は各研究科にて集計・分析を行い、今後の授業改善や教育内容・環境整備に役立てていきます。授業評価をはじめとするFD活動を各研究科と連携し、今後より一層推進して参ります。なお、各研究科のFD活動の一例は、高等教育推進センターホームページの「FD活動報告」をご覧ください。

次年度も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<実施期間※>

- ◆春学期
2023年 6月23日(金)～2023年 7月13日(木)
 - ◆秋学期
2023年12月13日(水)～2024年 1月16日(火)
- ※一部の研究科では、独自日程で実施

ICTツール(Box、Slackなど)、LUNA導入のご紹介

Box、Slack

BoxとSlackは、教育や研究に役立つ便利なツールです。2024年3月上旬から、本学の全教員・学生が利用できるようになります。

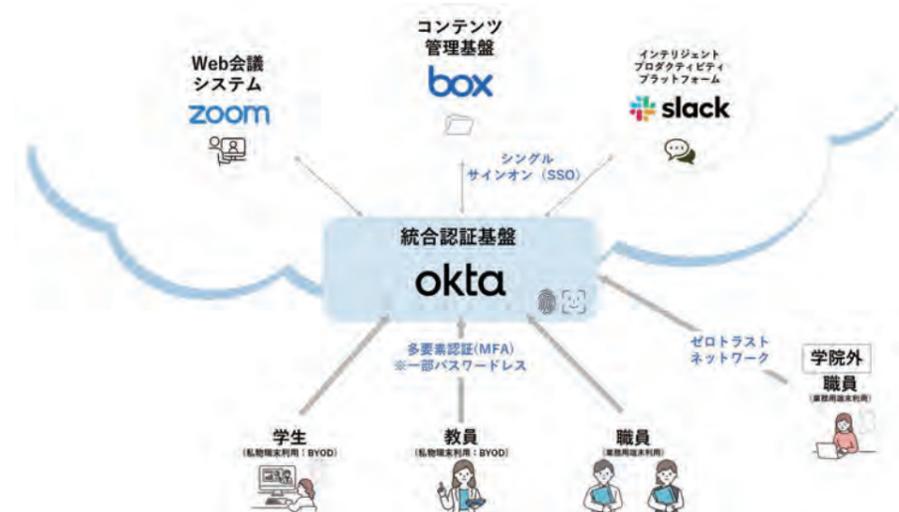
Boxは、容量無制限のオンラインストレージサービスです。学内に散在しているデータを一元管理でき、動画などの大容量データを学生に公開することも容易です。また、細やかな権限設定が可能で、ファイルごとにダウンロードを許可するか、といった設定も可能です。

Slackは、チームコミュニケーションツールです。Boxと組み合わせることで、例えば、Boxに授業のスライドや動画をアップロードし、Slackで学生に共有することができます。グループワークの場合は、Slackでメンバーと連

絡を取り合い、Boxでファイルを共同編集することが可能です。教員間、学生間でのTipsの共有も容易です。Slack上には学生および大学教職員が利用できる「大学ワークスペース」と大学教職員が利用できる「大学教職員ワークスペース」を用意します。

また、BoxもSlackも、共同研究先など、学院システム利用IDを持たないユーザーとのコラボレーションも可能で、コミュニケーションの幅を広げやすくなっています。

BoxとSlackは、高いセキュリティと利便性を兼ね備えた情報基盤で、教育や研究の効率や質を向上させることができます。ぜひ、ご活用ください。詳しい使い方などはkwicでご案内いたします。



LUNA

2023年8月末にLUNA(学習管理システム<Learning Management System>)のリプレースを行いました。キャンノンITソリューションズ社のin Campus LMS製品に変更となり、インターフェース

も大幅に刷新しています。変更点等は、kwicに掲載している情報化推進機構のLUNAのキャビネットをご参照ください。

何かあれば、右の問合せフォームからお問合せください。
(関西学院のシステム利用IDが必要)



教育研究システム

Type-A・Bの教室活用事例紹介



グループごとに1つのモニターを使用した効率的な協働学習

2023年の教育研究システムのリプレースの一環で、Type-A・B教室が整備されました。本記事では、その概要と活用事例をお伝えします。

Type-A教室の最大の特徴は、ICTを活用したグループワークがしやすい点にあります。壁一面がプロジェクターのスクリーンを兼ねたホワイトボードになっているほか、各グループ1台のホワイトボード付きモニターがあります。すべての机・椅子が可動式で、柔軟にグループを形成することができます。また、複数台あるプロジェクターは教卓の操作パネルで管理でき、1台1台異なる映像を出力することも可能です(プロジェクターの台数・系統数は教室により異なります)。これにより、講

義形式だけでなく、ワークショップやグループディスカッションなど多様な教育手法を取り入れることができます。

このType-A教室の活用事例として、本記事筆者が授業を担当している「スタディスキルセミナー(プレゼンテーション)」を紹介します。この授業は、学生が4人1グループになってグループワークを進め、最終的には15分間のプレゼンテーションを行います。グループワークのときには写真のように、各グループのモニターにPowerPointを映して、

話し合いながらプレゼンの準備を進めています。このように、3人以上のグループワークを伴う授業でICTを効果的に使用した協働を取り入れたい場合に、Type-A教室が適しています。

また、Type-B教室も同じく2023年に整備されました。こちらは従来のPC教室がより使いやすくなったもので、備え付けのPCを利用できるのはもちろんのこと、学生が持参している端末をケーブル1本でモニターやキーボードに接続し、ワンタッチで切り替えて利用することも可能です。個人作業やペアワークが中心の授業であればType-B教室がお勧めです。

(担当:岩田貴帆)

導入担当者の声

今回の教育研究システムリプレースはBring Your Own Device(個人所有のPCを学内に持ち込んで利用すること。)の段階的な推進を前提に、「ICTを活用し、学生が主体的に、いつでも、どこでも多様な学びを実現する。」ことを目指して実施しました。

学内外の皆様のご協力のもと、22教室が協働的な学びを生み出す新しい空間である「Type-A教室」に

生まれ変わりました。また従来型のPC教室である「Type-B教室」や個人所有のPC・スマートフォンからの印刷等も、より快適に、さらに便利になっています。

ぜひとも広くご活用いただき、お困りのことがあればお気軽にご相談ください。

(情報化推進機構:谷口公亮)



よみち
コラム

大学院生を対象としたプレFDについて



高等教育推進センター 専任講師

岩田 貴帆

専門は高等教育学、教育工学。2015年に同志社大学政策学部を卒業後、教育関係の会社勤務を経て、京都大学大学院教育学研究科にて博士学位取得。2023年4月に本学に着任し、高等教育推進センターにてFD関連の業務に携わるほか、「スタディスキルセミナー(レポート執筆の基礎、プレゼンテーション)」を担当。

2023年度に高等教育推進センターに着任いたしました専任講師の岩田貴帆と申します。本コラムの記念すべき第1回を担当させていただきますありがとうございます。今回は「プレFD」について日本の現状と関西学院大学の今後の取り組みについてご紹介します。

プレFD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、主に大学教員を目指す大学院生などを対象に、大学教員として必要な能力を養成することを指します。日本でプレFDが認識されるようになったのは2008年に中央教育審議会の答申で言及されたことが契機と言われており、2019年の大学院設置基準の一部改正では、「博士課程の学生が修了後自らが有する学識を教授するために必要な能力を培うための機会を設けること又は当該機会に関する情報の提供を行うこと」が努力義務化されました。

小中学校や高校の教員を目指す場合には、教員養成プログラムを受け教員採用試験に合格する必要がある一方、大学教員にはそういった制度が存在しません。どのように授業を

すればよいかかわからない状態で大学教員としてのキャリアをスタートするのではなく、その前の段階(プレ)から準備を始めることには、大学はもちろん大学院生にとっても意義があると期待されています。

そこで関西学院大学でも、2024年度よりプレFDプログラムを開始することが決まりました。「基礎編(仮称)」では本学に所属する大学院生を対象に、魅力的な授業を行うための基礎的な知識を獲得する機会をオンデマンド講義動画で提供します。さらに「実践編(仮称)」として、演習を通してそれらの知識を深め、実際に授業を行うスキルの獲得や、研究科を越えた院生同士のネットワーク形成をねらいとしたワークショップの開講準備を進めています。それぞれ、所定のプログラムを終えることで修了証を発行します。詳しい内容についてはkwic等で順次発信してまいりますので、ご興味をお持ちの方はご確認いただければ幸いです。